

講演要旨

① 「カイルス巡礼とグゲ王国」－西チベット・古格王国（842 年～1630 年）への旅路－

都留市文化協会副会長、写真家 藤本 紘一

西チベットのカイルス山（カン・リンポチェ、6656m）はアジア最大の聖地で、インド・ネパール・東チベット等から生涯の目標として巡礼にやってくる。チベット仏教、ボン教、ヒンドゥー教、ジャイナ教等の信者は一周 52km を五体投地で巡礼する。更にここから 160km 西方のツァンダには悠久のグゲ遺跡、トリン寺、ピアン・ドゥンカル石窟群があり、1,100 年も前の古格王国は索漠とした荒野にその当時の面影を色濃く残し、佇んでいる。これらの辺境地の画像を中心に報告します。

② 「標高 8,000m から眺めた星空の魅力」－マナスル峰で試みた天体観測－

(元) プラネタリウム解説員 村山 孝一

地球上で最も宇宙に近い場所、ヒマラヤ山脈 8,000m 峰の世界。天体観測を妨げる大気や光害の影響が少ないため、平地では眺められない満天の星が広がる世界である。標高 8,000m、気圧 368 hPa、酸素濃度 1/3 という観測条件で眺めた星空とは？博物館や科学館でプラネタリウム解説員として 20 年間ほど天文普及教育に携わっていた経験から、宇宙空間に最も近い場所から眺めた星空について解説します。

③ 「ハニ族における稲作農耕と伝統的知識の継承」－雲南省紅河州に見る棚田文化－

首都大学東京 人文科学研究科博士後期課程、

(中国雲南省) 紅河学院国際ハニ / アカ研究所訪問研究員 阿部 朋恒

2013 年に「紅河ハニ棚田群の文化的景観」が世界遺産に登録されたことを契機として、ハニ族の伝統農法はにわかに注目されることとなった。一方、この地域で稲作を営むハニ族の生活は市場経済化の要請のもと急激な環境変化にさらされており、農耕に関する技術や知識の継承も困難になりつつある。本発表では、ハニ族の村落で暮らした 2 年間の経験を基に彼らの農耕の実体を報告し、今日的な課題の所在を整理します。

④ トピック、「浮上式鉄道開発の経緯と中央リニア新幹線の動向」－夢・今・これから－

(元) (公益財団法人) 鉄道総合技術研究所 技師長 藤江 恂治

南アルプスを横断するリニア新幹線ルート。2014 年 10 月、品川～名古屋間の工事実施計画が認可されました。本講演では、各種リニアの方式比較、初期の開発経緯、超伝導リニア方式の特徴、鉄道研究所での開発内容、宮崎、山梨の実験センターでの試験、東京～名古屋間の建設と課題等について、研究開発が開始された 1962 年から 50 年の歩みを中心にお話いただきます。藤江様は、開発当初からリニア開発に前線で携わってこられました。(文責：前田栄三)

⑤ 「DNA から見た日本人の起源」－日本人成立の経緯－

(独立行政法人) 国立科学博物館 人類研究部長 篠田 謙一

今世紀になって、さまざまなヒト集団の DNA データが大量に生み出されるようになり、それを基にした集団の起源や拡散の研究が進められている。日本人の起源に関しても、旧石器、縄文時代を含む各時代のデータが揃いつつあり、従来の研究方法では知ることのできなかつた日本人形成のシナリオが提唱されるようになっている。本講演では、近年の DNA 分析が明らかにした日本人の起源について解説し、日本列島の集団の遺伝的な変遷を、アジアにおけるヒトの移動の文脈の中で説明します。